

上松 沙彩

UEMATSU Saya



BEAUTIFUL WOMAN

水性木版画、和紙

BEAUTIFUL WOMAN

私は、人間と生き物の営みをテーマに制作している。本学に入った時は、純粹に動物を主題としていたが、大学院では、動物を私の身近な妹や家族にまで広げて、制作を行っている。妹は自閉症という障害を持っており、コミュニケーションを取ることが苦手だ。しかし、言葉を話せない動物や植物も何かしらでコミュニケーションを取っており、言葉がすべてではないとわかる。生物の中で言葉を話せる人間は地球上にほんのわずかしかない。声を発して会話をすることがなにもすべてではないと気が付くだろう。動物や人間の命には限りがある。一見人間は、自分で人生の終わりを決めることができるように思われるが、不慮の事故や災害などによっていつ命が終わってしまうかわからない。ある程度人生を楽しむということも必要で、命の輝きを色鮮やかな色彩で表現していくことで、それらの人生に彩りを与えられる。

また、動物や身近な人のみならず、日常性や瞬発的に描いたように見える絵も実は芸術性を帯びた作品であるということがわかる。ただ精巧な綺麗な絵を描いただけでは、芸術とは言えないのである。人々の心を動かすものでなければ美しい術すなわち美術と言えないのだ。

私は、木版画とモノタイプを制作している。これら二つの技法は、特別な道具が必要ではなく、「気が付いたら制作している」ものだと思う。木版画とモノタイプの性質を生かして、「自分がふと気が付いた日常」を動物に限らず、様々なモチーフで試してみたい。動物や家族をモチーフにすることと、木版画とモノタイプで制作することによって、日常の大切さや命の輝きを表現し、伝え続けていきたい。